

CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE 建築（新築）2016年版（使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-6D_NC_2016(v3.0)）

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)神戸須磨シーワールドホテル	階数	地上8F
建設地	神戸市須磨区若宮町1丁目1番の一	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、近隣商業地域、準6地域	平均居住人員	293人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2022年5月20日
敷地面積	9,516 m ²	作成者	仁賀 雅昭
建築面積	1,956 m ²	確認日	
延床面積	8,041 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	87%
③上記+②以外の	87%
④上記+	87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 CASBEE神戸の重要項目

バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 3.0	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 Q-2/2.4 信頼性 3.0	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 4.0
配慮の概要 兵庫県福祉のまちづくり条例(改正版)を満たす計画としている。	配慮の概要 〇	配慮の概要 〇 海浜公園エリア全体での、統一的な景観に配慮した計画としている。
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたいた

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
(仮称)神戸須磨シーワールドホテル

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境							0.40		-	3.0
1 音環境						4.2	0.15	3.4	1.00	3.8
1.1 室内騒音レベル		NC-35を確保				5.0	0.40	5.0	0.40	
1.2 遮音						5.0	0.40	3.1	0.40	
1 開口部遮音性能		共用部はT-2仕様				5.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		TLD-60					-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-	2.0	0.20	
1.3 吸音						1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境						2.4	0.35	1.5	1.00	2.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	2.1	0.50	
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能						3.0	0.25	1.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式						1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境						2.5	0.25	3.6	1.00	3.0
3.1 昼光利用						3.6	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率		共用部は2.4% 客室部は3.5%				4.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口							-		-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						1.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御						1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		多灯分散照明方式				3.0	0.15	5.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境						3.7	0.25	4.1	1.00	3.8
4.1 発生源対策						5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆のみを使用				5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気						2.0	0.30	2.6	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		居室面積の9.4%以上の開閉可能な窓を確保					-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理						3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視							-		-	
2 喫煙の制御						3.0	1.00		-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.4
1 機能性						3.9	0.40	3.9	1.00	3.9
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	3.5	0.60	
1 広さ・収納性							-	3.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応		100Mbitクラスのブロードバンドを導入					-	4.0	0.50	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性						5.0	0.30	4.5	0.40	
1 広さ感・景観		CH=2500以上					-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース							-		-	
3 内装計画		コンセプト/内装計画有、機能明確化、照明一体取組有、パース有				5.0	1.00	5.0	0.50	
1.3 維持管理						4.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い内装、金属部防錆有				4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		共用部からの維持管理可能、清掃用流し有、十分なゴミ庫確保				4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数20年				5.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ガルバリウムダクトの採用				5.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の内2種(給水、排水)がB以上、E不使用				5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20		-	
2.4 信頼性						3.0	0.20		-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA				4.0	0.20		-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.4	0.30	2.6	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					2.2	0.50	
1	階高のゆとり		-	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.13	-	-	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.4	1.00			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	EPS、天井点検口により更新可	5.0	0.10			
4	通信配線の更新性	EPS、天井点検口により更新可	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑豊かで地域の歴史を継承した景観、まちなみに調和した景観	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率84%、屋上緑化、外壁面対策、高温排熱の放出部GL+10m	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.84	2.8	0.50	-	-	2.8
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		省水型機器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		自動洗浄小便器、ウォシュレット、自動水栓	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		不燃木材(杉)の利用	5.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS+ボード、可動間仕切壁	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.20	-	-	3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用		ビニル床タイル・タイル用・壁紙用・フローリングボード用接着剤	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1	消火剤	窒素ガス消火剤	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		自動計算による	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な駐車スペースの確保、荷捌き駐車場の確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン、広告物照明の扱いの各々過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	